

令和7年度 体育に関する指導推進支援事業

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善  
～『見方・考え方』『課題発見・課題解決』の学習過程に着目して～

広島県高等学校教育研究会 保健体育部会

部会員数	175名
部会長	部会長 柏 裕美(向原高等学校長)
TEL(事務局)	事務局長 広島県立呉工業高等学校 吉廣 海 (0823) 71-2177

### 1 課題と目的

#### 課題

昨年度の研究活動を通して現場の声として挙げた「この授業で生徒が楽しいと感じるのか」「評価方法はこれでよいのだろうか」といった疑問や不安があり、「主体的・対話的で深い学びの視点で授業改善」を実施するための具体的な方策が各学校で明確化できていない現状があった。

#### 目的

「主体的・対話的で深い学びの実現へ向けた授業改善」～『体育や保健の見方、考え方』『課題発見・課題解決』の学習過程に着目した授業実践で授業改善及び教師の指導力の育成を図る。

### 2 主な取組の内容

- ①総会による研究テーマの共有と大阪体育大学 小林博隆准教授による「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」～『体育や保健の見方、考え方』『課題発見・課題解決』～をテーマにした講演会を実施した。
- ②各地区（広島西・広島東、呉、三次、福山）において研究テーマに沿った研究授業を実施した。また、広島県立呉三津田高等学校及び広島県立吉田高等学校の2校においては体育指導専門講座（1/28）にて成果報告をした。

### 3 取組で工夫したところ

保健体育部会の研究活動より、理事会にてテーマの選定後、課題点を踏まえたうえで小林准教授と連携し、講演会を実施した。講演会ではテーマに沿って教材作りのポイントや学習形態

の在り方、ICTの活用例等を中心とした講演内容であった。講演会后、講演で使用した資料をPDFに変換し部会員に送付し、内容の周知を図った。送付資料には、小林准教授の作成した教材やYouTube動画のURLが添付されており、講演会に参加できなかった部会員が各資料を参考に教材研究ができるものとした。各地区での研修会では、生徒が主体的に学習に取り組めるよう、特に、バドミントンにおける自他の動きを確認するためのICTの効果的な活用方法や陸上競技における自己の課題に応じた活動内容の選択等について授業研究を進めた。



### 4 成果と今後の課題

保健体育部会の研究活動を通して、「ICTの効果的な活用」「学習ファイルによる振り返り」「自己の課題に応じた技能習得のためのドリルの選択」等により、生徒の主体的に学ぶ姿に変容が見られ、成果を得ることができた。また、生徒同士が技能等の習得に向けて助言をするなどの「対話的な学び」を実施することで、生徒の考えが広がったり、深まったりすることが分かった。今後の課題としては、生徒の習熟度や課題に応じた手立てが必要であり、特に苦手意識のある生徒には、技能習得に向けて十分な時間の確保やスモールステップの提示等、場の設定を工夫する必要があると感じた。次年度はそれらを効果的に展開するための教材研究に努めていきたい。



大阪体育大学小林准教授による講演会の様子



生徒の学習ファイルによる振り返りの様子



技能習得等に向けて生徒同士が助言し合う様子